

2015年12月13日(日)朝10:10～
12月第2共同主日礼拝式説教

降誕節前2、待降節第3、交歓会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**主の御前に先立って行き、 主の道を備える**

聖書：ルカ 1章67～80節

＜口語訳＞

新約聖書84～85頁

ルカ 1章67～80節

＜新共同訳＞

新約聖書102頁

ルカ 1章67～80節

＜新改訳第3版＞

新約聖書108～109頁

ルカ 1章67～80節＜塚本訳＞

新約聖書169～171頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇ルカ1章は、神の御子主イエス様の誕生が、「ルカ2章の救い主の誕生」に向けて、「神の語り」が、第1幕(1:5～23)「ヨハネ誕生予告」、第2幕(1:26～38)「救い主誕生予告」、第3幕(1:39～56)「ヨハネの母となるエリサベツと救い主の母となるマリヤの対話」が、ルカによって、記録されています。

◇ルカ1章57～80節は、第4幕で、57～66節が、エリサベツによるヨハネの誕生、67～80節が、ザカリヤの預言のことばの2つの区分から成り立っています。

⇒本日は、67～80節から「ザカリヤの預言」のことばが語られ、前半(67～75節)では、一般的な預言が、後半(76～80節)では、彼の息子ヨハネの働きへの預言が扱われます。

⇒先週、マルチン・ルターのことば、「不信仰が沈黙せしめた人を、聖霊が預言者と変える」のように、ザカリヤ・エリサベツ夫妻は、神のことば預言の神信仰に生きる者にされた。

⇒ザカリヤの預言は、ヨハネが主の道を備えるがことに集約されます。

本論；

◇本日、ルカ1章67～80節から主の使信に
思い・心をとめます。

◆ルカ1章67～75節；ザカリヤは、神が救い
主を神の民のために与えて下さった語ります。

◇67～80節；塚本訳◆ザカリヤの讚美の歌
「67 父ザカリヤはその時聖霊に満たされて
こう預言した。――

68 『讚美すべきかな、イスラエルの神なる
主！』『その民(イスラエル)を』心にかけて
『あがないを』なし、

69 わたし達のために、僕『ダビデの』家に
救いの(力強い)『角(なる救い主)をお立て
になる』からである、

70 遠い昔から、聖なる預言者たちの口を
もって仰せられたとおりに。

71 その角こそ、われらの『敵から、』『また』
すべてわたし達を『憎む者の手から、』
すくう救いである。

72 主はこうして、『われらの先祖に憐れみ
を』ほどこし、また『その』聖なる『契約、』

73 (すなわち)先祖『アブラハムにお立てになった』誓いを『おぼえ、』

74 わたし達を敵の手から救いだし、不安なく、主に奉仕させてくださるのである、

75 全生涯を主の前に清く、正しく」と、ルカは語っています。

◇67～75節;『讚美すべきかな、イスラエルの神なる主！』『その民(イスラエル)を』心にかけて『あがないを』なし、「わたし達のために、僕『ダビデの』家に救いの(力強い)『角(なる救い主)をお立てになる』から」、「遠い昔から、聖なる預言者たちの口をもって仰せられたとおりに」、「その角こそ、われらの『敵から、』『また』すべてわたし達を『憎む者の手から、』すくう救いである」、「主はこうして、『われらの先祖に憐れみを』ほどこし、また『その』聖なる『契約、』」、「先祖『アブラハムにお立てになった』誓いを『おぼえ」、「わたし達を敵の手から救いだし、不安なく、主に奉仕させてくださるのである」、「全生涯を主の前に清く、正しく」して下されると、ルカは、預言者ザカリヤのことばを記録しました。

⇒祭司、預言者ザカリヤは、神の民イスラエルが、神のお立てになった王ダビデや神信仰と神の祝福の父祖アブラハムの神の誓いや神との契約に基づいて、預言者たちが、「神の救いの恵み」を語っています。

⇔「救いの角」(口語訳)は、「力ある(角)救い主」を意味します。

⇒ザカリヤは、祭司として、神の恵みの御座に近づく特権を与えられながら、「神の天使の告げることば」を受け入れることができませんで、神の約束された幼子ヨハネの誕生まで、神の赦しを宣言すべき口を撃たれ、封じられてしまったのです。

⇒マルチン・ルターが語ったように、神のことばを語れないザカリヤが今、「主に奉仕させてくださる」=「主を礼拝できる」こと、「清き ὁσιότης」心で、その本務が果たせる者とされたことを告白できているのです。

⇒TK師は、「愛が罪を犯させる」と語り、神に愛されながら、神の御子を十字架につけた神の民イスラエルの罪を、神の民キリスト者にも、問うておられます。

◆ ルカ1章76～80節；ザカリヤは、ヨハネについて力ある救い主に先立って行き、罪の赦しによる神の救いの道を備える本務が託されていることを預言しました。

◇67～80節；塚本訳◆ザカリヤの讚美の歌

「76 お前、幼児よ、お前はいと高きお方の預言者と呼ばれる。『主の』先駆けをして『その道を用意し、』

77 罪の赦しによる救いを民に知らせるのだから。

78 これは(みな)われらの神の(深き)憐れみの御心によるのである。またその憐れみによって、高き所よりの光がわたし達を訪れ、

79 『暗やみと死の陰とに住まう人々を照らし、』われらの足を『平和の道』へと導くであらう。

80 幼児は大きくなり霊も強くなって、(洗礼者として)イスラエルの民の前にあらわれる日まで、荒野に(かくれて)いた」と、ルカは語っています。

◇76～80節；ザカリヤは、ヨハネに神の預言者として「救い主」を語ることを求めます。

⇒**ザカリヤ**は、「**ヨハネの名**」が、「**ヤハウェ(主)は慈しみ深い**」を意味し、その事実を語る者として立てられたことを最優先に宣言しているのです。

⇒「**主に奉仕させてくださる**」者とされた**ザカリヤ**の受けた**神の恵み**を**ヨハネ**も受け継ぎ、「**ヤハウェ(主)は慈しみ深い**」と語る役目を背負うと、**ザカリヤ**は**預言**します。

⇒**78節**の「**罪の赦しによる救い**」は、「**われらの神の(深き)憐れみの御心によるのであり**」、「**その憐れみによって、高き所よりの光がわたし達を訪れ**」て下さることによって実現し、**79節**の「『**暗やみと死の陰とに住まう人々を照らし、**』**われらの足を『平和の道』へと導く**」**ヨハネ**の役目の重要さを**ザカリヤ**は**預言**したのです。

⇒「**その憐れみによって、高き所よりの光がわたし達を訪れて**」下さるゆえに、「**罪の赦しによる救い**」が保証されるという「**清い心**」・「**敬虔の心**」が必要であるとも、**ザカリヤ**は、**預言**しています。

⇔「**罪の赦しによる救い**」は、**神のもの**です。

結論；

◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇**ルカ1章**は、**神の御子主イエス様の誕生**が、「**ルカ2章の救い主の誕生**」に向けて、「**神の語り**」が、**第1幕**(1:5～23)「**ヨハネ誕生予告**」、**第2幕**(1:26～38)「**救い主誕生予告**」、**第3幕**(1:39～56)「**ヨハネの母となるエリサベツと救い主の母となるマリヤの対話**」が、ルカによって、記録されています。

◇**ルカ1章57～80節**は、**第4幕**で、**57～66節**が、**エリサベツによるヨハネの誕生**、**67～80節**が、**ザカリヤの預言のことば**の2つの区分から成り立っています。

⇒本日は、**67～80節**から「**ザカリヤの預言**」のことばが語られ、**前半(67～75節)**では、**一般的な預言**が、**後半(76～80節)**では、**彼の息子ヨハネの働きへの預言**が扱われます。

⇒「**ヤハウエ(主)は慈しみ深い**」、「**罪の赦しによる救い**」に導き、「**主に奉仕させてくださる**」という**神の恵み**は、**神の預言者**が語るべき本務で、**ザカリヤ**も、**ヨハネ**も、**主に先駆けて預言**することは全く同じなのです。